

Future Challenge Project 2024

～誰もが共に暮らし続けられるまちづくりを目指し挑戦する活動～

団体名●Future Makers、新谷ゼミナール

代表者名●福田竜也（人間科学部スポーツ学科 4 年）

はじめに(背景・目的・目標)

日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)は社会課題や共通のテーマ(教育、ダイバーシティ、まちづくり、健康、世代間交流など)に地域住民、企業や団体、自治体、学校などと J クラブが連携して取り組む活動(Jリーグ社会連携活動(通称「シャレン!」))を推進している。本学スポーツ学科では、石川県をホームタウンとする J クラブ「ツエーゲン金沢」及び多数のステークホルダーとの協働により、2020年度より「シャレン!」の取組みに参画している。

2024年度は、サッカーを通じ、障害のあるなしに関わらず誰もが共に暮らし続けられるまちづくりを目指し挑戦する活動「Future Challenge Project 2024」の実行委員会メンバーとして、学生団体 Future Makers、新谷ゼミナールが参画した。2021年度から改善を重ね継続してきている「視覚障害者向けのサッカー観戦会」を中核的な取組みとしながら、主催者、視覚障害者、サポーターの3者がさらなる挑戦をすることで、相互理解を深め、「お互い様があふれるまちづくり」を目指すこととした。

活動内容

日程：2024年11月10日(日)明治安田生命 J3 リーグ

第36節 vs 福島ユナイテッド FC 戦

場所：金沢ゴーゴーカレースタジアム

参加：参加障害者120名、本学学生18名

実行委員会メンバー／協力者15名

来場観戦者数4,793名

内容：①視覚障害者の方向けサッカー観戦会

② PlatCast での実況・解説サービス配

③ウォーキングフットボール体験会

④障害者によるパフォーマンス

⑤障害体験・啓発ブース

⑦障害者によるフェアプレー

フラッグ掲出

以上の企画に関して、プロジェクト担当学生4名が実行委員会メンバーとして参画し、それ以外の学生はイベント当日の視覚障害者の介添えや運営サポートスタッフとして参加した。



試合観戦会の様子（学生による介添え）

成果、結果の考察

今年は昨年に比べ障害の幅を増やして体験・啓発ブースを展開した結果、より多くの方に「障害」について知ってもらえたのではないかと考えている。企画後の参加学生からのアンケートからも、「障害を持っている方ができることが多く、自分たちと変わらないと思った」という回答があった。本プロジェクトが多方面に向けて、障害について深く考えるきっかけとなっていることを成果として感じている。

今後の課題、展望

視覚障害以外の障害へのより良いサポートやブース展開ができるようにしていくため、様々な障害者団体への協力を仰ぎ、障害への知識を深めていく必要があるのではないかと考えている。このように年々新しいものを取り入れていくことによって、本プロジェクトが作り上げたい社会として掲げる「障害あるなしに関わらず共に暮らし続けられるまち」に一歩ずつ近づいて行くのではないだろうか。